

# 令和2年度 普及活動成果集



農福連携の現地視察



リンドウ新品種を申請中



イチゴの  
ICT試験



水管理システムの現地検討会



繁殖雌牛の審査中



県育成品種 カキ「秋王」

福岡県 朝倉普及指導センター  
令和3年 3月

## はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルスの世界的拡大と、その対応というおそらく人類の歴史に残る出来事の中で終始しました。

また、当地域をはじめ県内の多くの地域で、4年連続となる豪雨災害に見舞われました。

当地域は平成29年7月の九州北部豪雨災害から4年目となり、このようなマイナス要因に翻弄されながらも、その復旧、復興に多くの方が懸命に取り組んでいます。当普及指導センターでも関係機関との連携を図りながら、その時々之最善策を尽くして活動を行ってきました。また、地域農業の担い手の育成、新技術、新品種の導入等も、広く進めてきました。

この冊子は、そのような令和2年度の活動の中から、一定の結果や方向性が見られたものを成果としてとりまとめたものです。新型コロナウイルスの感染拡大防止という大きな課題の中、当初計画の中止・変更を余儀なくされた活動や、足踏みをせざるを得なかった活動もありましたが、直近の成果を記載しておりますので、今後の営農の参考となれば幸いです。

世界的な経済や人々の生活を巻き込んだこの状況の中で、三密の回避や移動の制限などに積極的に対応していくための各種の施策が実施され、これまで進められてきたICT技術を始めとした様々な技術の利用が加速化していると感じます。リモートや自動化といったワードが、度々使われるようになってきていることから、そのような状況を強く感じるどころです。都市部と農村部では、そのインフラや活用する技術のスピードに差異があることも感じられますが、農業経営や生産技術、物流や市場形成など農業生産においても多面的に対応、構築していく必要があると考えられます。

普及活動においても目標や方法に不断の見直しを続けながら、よりよい農業生産が図られるよう活動していく必要があると考えています。

これからも、災害からの復興と言う当地域の最大のテーマをはじめ、担い手の育成や地域の振興をすすめてまいります。農業士、女性農村アドバイザーや部会役員、農家リーダーの皆様をはじめ関係機関が一体となって、地域の課題解決を図っていきたいと考えますので、今後とも御支援御協力をよろしく申し上げます。

令和3年3月

福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター長 行徳 政比古

# 目次

## 1 普及活動の成果

(1) 被災地の農業再生による朝倉地域農業の活性化	1
(2) 将来のあさくら農業を担う新規就農者の育成	3
(3) 朝倉地域を担う経営体の育成	5
(4) 力強い水田農業担い手の育成	6
(5) 朝倉地域イチゴ生産技術向上	7
(6) 冬春キュウリの生産性向上	8
(7) 鉢花産地のブランド強化	9
(8) 「秋王」のモデル農家の育成と産地への普及推進	10
(9) 酪農経営における新規就農者の定着	11

## 2 トピックス(注目の活動・技術の紹介)

(1) 農福連携地域研修会を開催	12
(2) 復旧半ばの東峰村岩屋地区で地域振興の支援	12
(3) スマート農業技術研究会を開催	13
(4) 施設野菜のICT活用による収量・品質の向上に向けたグループ活動開始	13
(5) 切花の産地振興に向けた取り組み	14
(6) 生産者とともに保育所で花育活動を実施	14
(7) 朝倉産の花で飾花活動を実施	15
(8) JA筑前あさくら果樹GAP研究会が県GAP団体認証取得	15
(9) モモ根圏制御栽培の現地試験を実施	16
(10) 第1回繁殖雌牛集合審査会を開催	16

## 3 参考資料

(1) 管内の各種表彰農家の紹介	17
(2) 新型コロナウイルスの影響下における普及活動	18
(3) 令和2年の気象概況および生産概況	21
(4) 令和2年度主な展示ほの概要	24
(5) 令和2年度普及指導センター活動情報一覧	25
(6) 普及指導センターの活動課題と活動体制	26

# 1 普及活動の成果

## 1 被災地の農業再生による 朝倉地域農業の活性化

実施期間：平成30年度～令和2年度

朝倉地域は平成29年7月九州北部豪雨災害により、河川の氾濫、傾斜地の崩壊による園地や農道・水路の崩壊、農地の流亡等の甚大な被害を受けました。普及指導センターは、平成30年度に市村等関係機関とともに策定した「農業再生・発展に向けたアクションプラン」を実践し被災農家の営農再開支援に取り組むとともに、河川流域の区画整理復旧地区における営農課題を検討しました。また、復興につながる営農モデルの検証を行いました。

### 対象の概況

重点地域			重点指導対象農家
中山間地域		水田地帯	支援対象被災農家 376戸（※うち7戸はH29に離農）  ・営農未再開の被災農家 142戸 ・新規品目を導入した被災農家 6戸 ・復興営農モデルの検証農家 8戸
区画整理型農地改良復旧地区	東峰村	旧朝倉町	
9河川19地区 198ha	24ha	212ha	

### 活動の内容

#### (1) 農業復興計画の実践

朝倉地域産地・担い手育成協議会の「農業災害復興プロジェクト班」において、朝倉市・東峰村の「農業再生・発展に向けたアクションプラン」を策定し、年度ごとに状況に合うよう内容を見直しながら、関係機関と一体となった活動を展開した。

具体的には、JA農業経営検討チームでは、営農再開の仕組みとしてJAが直接アスパラガス経営を行う仕組みを創設した。また、各年度の営農未再開の被災農家は、全戸を個別巡回し、意向を踏まえて技術・経営指導を実施した。

#### (2) 被災地区の復興

黒川地区において、農地復旧後の担い手の姿について話し合う「黒川地区の農業(未来)を考える会」の設立を支援した。設立にあたっては地元コミュニティと連携し、地区住民が主体となる活動を心がけた。

東峰村の栗松地区においては、集落点検を実施、集落の農地を守るための活動計画づくりの支援を開始した。

#### (3) 復興営農モデルの検証

被災農家やメーカーと連携し、スマート農業機器を活用した営農モデルを検証した。



JA直接経営による営農再開  
(被災農家が作業、順調に生育)

## 成果

### (1) 農業復興計画の実践

#### ◎ 営農再開者数の推移

年度	H29	H30	R1	R2
営農再開者数 (のべ)	227 戸	346 戸	354 戸	360 戸

#### ◎ 新規品目導入者の単収確保

平均単収確保(イチゴ)

(目標: 2戸 → R2: 2戸)

ハウス環境データの共有や、巡回指導により早期の技術習得ができた。



新規品目(イチゴ)導入による営農再開

### (2) 被災地区の復興

◎ 河川流域区画整理型復旧農地の営農計画等の策定を開始した。

(目標: 10地区 → R2: 4地区)

奈良ヶ谷川地区では流域の営農計画策定、黒川上流・中流・下流地区では、黒川地区の農業(未来)を考える会が設立され、農地復旧後の課題や不安・問題点などを整理した。



黒川地区の農業(未来)を考える会

### (3) 復興営農モデルの検証

#### ◎ 果樹複合・省力栽培体系モデル

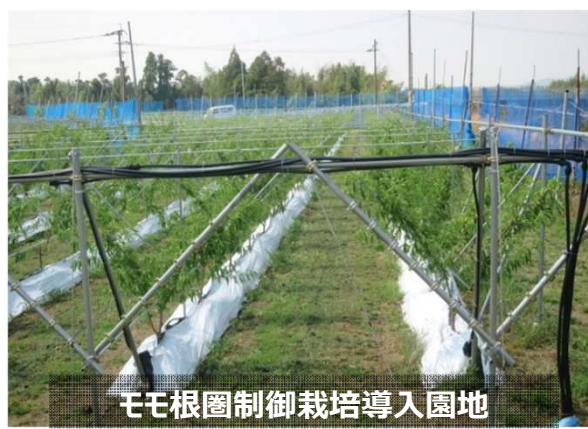
(目標: 2モデル → R2: 2モデル)

カキ経営にアスパラガスを組み合わせる、高収益な複合経営モデルと、自動草刈機による果樹の省力栽培モデルを検証した。また、新たにモモの根圏制御栽培による、早期成園化モデルの検証を開始した。

#### ◎ 野菜早期経営安定モデル

(目標: 1モデル → R2: 1モデル)

イチゴ栽培において、高収量農家のハウス環境をリアルタイムにデータで共有し、新規栽培農家が早期技術習得できるモデルを検証した。



モモ根圏制御栽培導入園地

## 今後の取り組み

朝倉市の区画整理型復旧農地は、多くの地区がこれから工事実施となるため、各地区の状況に応じた地域農業の復興支援を行います。具体的には、復旧農地の担い手の姿や組織体制(仕組み)などを表した「営農ビジョン」の作成・実践支援を行います。また、果樹園地については担い手への集積・集約化を進めるとともに、被災によって荒廃した園地の改善に取り組みます。

さらに、今回の活動で検証した営農モデルを主として、未収益期間の短い品目など新規品目や、先進技術の導入を進めます。

東峰村においては、BRT開通後の村外交流をターゲットに村認定特産品を販売できるよう、新たな農産物導入や加工品の開発を促します。また10年後も持続的に農業振興できるような地域づくりを支援します。

## 2 将来のあさくら農業を担う新規就農者の育成

実施期間：平成30年度～令和2年度

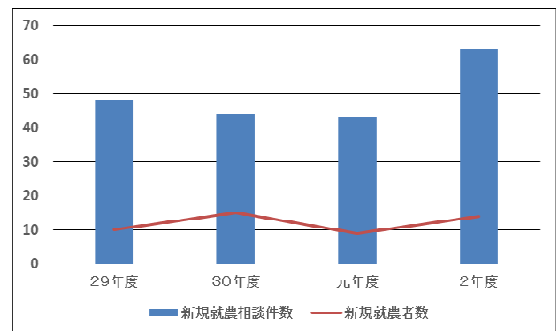
農家の高齢化・後継者不足により、JA各生産部会の生産者、作付面積は減少傾向にあり、産地縮小が懸念される中、対策が求められています。

そこで、関係機関、JA生産部会と連携して空きハウスのリストを作成し、新規就農希望者へ提供できる情報の充実を進めました。

また、新規就農者に対して、所得向上に向けた現地支援を行いました。

### 対象の概況

新規就農相談件数(R2) 63件  
最近5か年の新規就農者 63名(H27～R1)  
農業研修生(受入れ先進農家) 1名(イチゴ)



### 活動の内容

#### (1)新規就農支援体制の整備

空きハウスの聞き取り調査を行い、リストを作成した。関係機関からの情報を追加・修正できるように、JAで一元管理体制を整備した。

就農相談時に経験が少ない方に提案したり、農業大学校と連携し、農業研修生の募集活動を行った。

#### (2)新規就農者の確保

お盆や正月期に、関係機関が連携して、各市町村で新規就農相談会を開催した。重点的な相談期間を設けたことから、通常の月よりも多くの相談があった。

また、農業研修生の就農に向けた個別面談を行い、ハウスの確保や運転資金の準備等の支援を行った。

#### (3)新規就農者の育成と定着

新規就農者に担当者を配置し、重点巡回時期を設けて、ほ場巡回を行った。

関係機関で構成するサポート体制で、収支実績等の経営データを元に経営改善支援や現地巡回を行った。



新規就農相談会の様子

## 成 果

### (1)新規就農支援体制の整備

- ・朝倉地域担い手・産地育成協議会新規就農支援部会が就農希望者の研修機関として県認定を受け、イチゴの先進農家に研修生1名を派遣した。
- ・空きハウスのリストを作成した。今後は関係機関の情報を元に随時、追加・修正しながら、就農希望者へ情報を提供する。



### (2)新規就農者の確保

- ・新たに15名(R2年度)が新規就農した。  
「目標:22名/年 → 13名/年」

	20代	30代	40代	
朝倉市	2名	6名	3名	Uターン 6名 新規参入 5名 親元就農 0名
筑前町	1名	2名	1名	Uターン 1名 新規参入 2名 親元就農 1名

### (3)新規就農者の育成と定着

- ・青年等就農年度計画(認定新規就農者)達成者

「目標:80% → 29%」認定新規就農者31戸中9戸が計画目標を達成した。

- ・新規就農5年目の人の定着率

「目標:100% → 100%」

14人中14人が農業を継続した。



## 今後の取り組み

新規就農者の確保・育成・定着は、産地の維持・発展にとって、重要な課題の1つです。

新規就農者や農業研修生の相談体制は整備されてきました。しかし、就農時の農地・施設・機械の導入支援や、新規就農者の早期の経営安定に向けた改善支援は十分に整っていないため、引き続き、朝倉地域担い手・産地育成協議会新規就農支援部会を中心として、JA生産部会とも連携を強化して取り組んでいきます。

## 朝倉地域を担う経営体の育成

実施期間：令和2年度～4年度

朝倉地域農業の振興のためには核となる経営体の育成が必要です。

そこで、県域の経営セミナー「ふくおか農業経営アカデミー発展・確立コース」の修了生に対し、個別フォローアップや研修会の開催による経営計画実践に向けた支援を行いました。

また、企業的経営体志向農家に対し、個々の課題に応じたコンサルタントの派遣など経営発展のための支援を行いました。

### 対象の概況

ふくおか農業経営アカデミー修了生	11名
企業的経営志向経営体	6名

### 活動の内容

#### (1)修了生の経営確立・発展

- ・全修了生に経営計画の達成状況を聞き取り、経営分析や技術指導、情報提供など、それぞれの課題に応じた支援を行った。
- ・共通の課題である雇用管理研修会を開催した。

#### (2)企業的経営体の育成

- ・対象者へのカウンセリング結果に基づき、課題解決策の提案及び税理士などの専門家派遣を行った。



アカデミー修了生研修会

### 成果

#### (1)修了生の経営確立・発展

個別フォローアップにより、修了3年目の農家が目標を達成した。また、研修会での意見交換を通して、修了生同士のネットワーク化にもつながった。

- ・経営目標達成者  
(R1：0名 → R2：1名)

#### (2)企業的経営体の育成

後継者へのスムーズな経営継承や社会保険の整備など個別の課題が解決した。

- ・所得1,000万円以上の経営体  
(R1：0名 → R2：1名)



専門家による個別相談会

### 今後の取り組み

#### (1)修了生の経営確立・発展

引き続き個別フォローアップを行い、それぞれの経営目標達成を支援します。修了生の意向を反映した研修会を実施します。

#### (2)企業的経営体の育成

対象者の具体的な課題に応じて、専門家派遣事業等を活用しながら経営力強化を支援します。



# 力強い水田農業担い手の育成

実施期間：令和2年度～4年度

朝倉地域の水田農業の振興のためには、経営力を強化し続けられる経営体、地域の水田を永続的に守ることができる集落営農法人の育成が必要です。

そこで、経営体に対しスマート農業技術の導入支援による経営力強化、集落営農法人に対し課題を明らかにするための面談や長期計画の作成等による経営改善の取り組みを行いました。

## 対象の概況

スマート農業技術導入志向 経営体	28経営体
集落営農法人	12法人

## 活動の内容

### (1)スマート農業技術導入支援

スマート農業技術の導入による経営力強化を目的として、スマート農業技術研究会を開催し、理解の促進を図った。

スマート農業技術研究会では、水管理システムの現地検討会、営農管理システムについての勉強会を行った。

### (2)集落営農法人の経営改善

集落営農法人の経営改善を目的として、各組織との面談、要望があった1法人で長期計画の作成を支援した。

#### カウンセリング項目

分類	調査項目			
経営理念・経営計画・運営体制	1 スローガン	ない	定まらぬ	検討中
	2 中長期計画	ない	定まらぬ	検討中
	3 組織更新計画	していない		している
	4 定期的な理事会	していない		している
	5 部門別数値責任書	置いていない		置いている
効率的な土地利用	1 農地集積	ない	一部	一部以上
	2 作付計画	個人の集計	一部法人で決定	法人で決定
	3 ブロックローテ	していない		している
	4 品種団地化 水稲	個人の自由	一部団地化	団地化
	5 品種団地化 麦	個人の自由	一部団地化	団地化
適正な計数管理	1 作業日報	していない	共同部分のみ	している
	2 複式簿記	していない		している
	3 財務諸表分析	していない		している
	4 部門別分析	していない		している
	5 フール計算方式	していない		している
人材育成・労務管理	1 組合長の後継者	いない	育成中	いる
	2 オペレーターの後継者	いない	育成中	いる
	3 会計担当の後継者	いない	育成中	いる
	4 労務保険	加入していない		加入している
	5 その他傷害保険	加入していない		加入している
生産	1 稲収 米	JA平均より下	JA平均並み	JA平均より上
	2 稲収 麦	JA平均より下	JA平均並み	JA平均より上
	3 稲収 大豆	JA平均より下	JA平均並み	JA平均より上
	4 新技術導入	していない		検討している
	5 新規品目	していない		検討している

#### 面談資料

## 成果

### (1)スマート農業技術導入支援

スマート農業技術研究会の実施などにより、8経営体がスマート農業技術を導入した。

・スマート農業技術導入農家数  
(R1:10経営体 → R2:18経営体)

### (2)集落営農法人の経営改善

法人各々の現状の把握により、各集落営農法人の課題(機械の更新、役員の引継ぎ)が明らかになった。課題解決の先行事例として、1法人で長期計画を作成した。

・長期計画の作成法人数  
(R1:0法人 → R2:1法人)



5経営体がドローンを導入しました

## 今後の取り組み

スマート農業技術を導入した経営体に対し、生産コスト低減効果を実証します。

導入支援とともに、経営体同士やメーカーとの意見交換の場を設け、導入した技術を最大限活用できるように支援します。

また、各集落営農法人との面談により明らかになった課題の解決に向けた、研修会や解決手法の提案を行います。

# 朝倉地域イチゴ生産技術向上

実施期間：平成30年度～令和2年度

管内のイチゴ産地は、親からの経営移譲、新規就農、また、H29年7月九州北部豪雨による被災を機に品目転換した生産者が増えているため、若手生産者や新規栽培者への支援が求められています。

そのため、部会の若手組織の活動支援や、経営相談会を行い、組織の活性化を図りました。また、新規栽培者に対しては、定期的な巡回指導を行うとともに、現地検討会を実施することで、技術面のフォローアップを図りました。

## 対象の概況

朝倉地域イチゴ部会(令和元年度産)

	部会員	栽培面積
三輪	21戸	4.5ha
杷木	13戸	1.7ha

重点対象者

項目	戸数
施設新設若手生産者	4
新規栽培者	6

## 活動の内容

### (1)朝倉地域イチゴ部会単収向上

若手組織の活動の一環として、施肥試験の実施やとりまとめを行い、若手組織から部会へ結果を報告できるようサポートした。

### (2)重点対象者の単収向上

時期別の管理状況について、生産者と普及指導員で相互に評価を行った。また、新規栽培者でそれぞれの現地を巡回し、栽培技術についての検討を実施した。



現地検討会

## 成果

### (1)朝倉地域イチゴ部会単収向上

- ・三輪部会(目標: 4.0t/10a  
→ 3.9t/10a)
- ・杷木部会(目標: 3.6t/10a  
→ 3.6t/10a)

### (2)重点対象者の単収向上

- ・経営課題達成者率  
(目標: 100% → 90%)
- ・部会平均単収達成者率  
(目標: 100% → 67%)

### 育苗期の経営課題の5段階相互評価

生産者		育苗期		
		苗の大きさ (クワ径: 8mm以上)	根傷みの程度	病害虫の 発生程度
A	自己評価	4	2	5
	他者評価	3	2	5
B	自己評価	4	4	5
	他者評価	5	4	5
C	自己評価	2	2	3
	他者評価	3	3	3
D	自己評価	3	2	4
	他者評価	3	2	4

## 今後の取り組み

今後も新規就農予定の生産者が見込まれているため、引き続き若手生産者や新規栽培者を中心に支援を継続し、管内イチゴ生産者の経営安定を図ります。

# 冬春キュウリの生産性向上

実施期間：平成30年度～令和2年度

冬春きゅうり部会では高齢化が懸念され、労力軽減が求められています。

そこで個別の経営状況に応じた省力的で効率性の高い品種や整枝方法の導入を図りました。併せて、ハウス内環境の最適化に取り組む研究会員に対し、研究会活動を通じて得た知見を共有することにより、ハウス内環境測定機器を活用した栽培管理技術の維持・向上を図りました。

## 対象の概況

JA筑前あさくら 冬春きゅうり部会(令和元年度産)

部会員	栽培面積	収量/坪
20戸	4.9ha	67kg

ハウス内環境最適化研究会 (令和元年度産)

研究会員	収量/坪
9戸	70kg

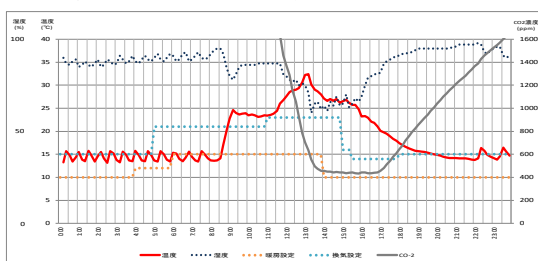
## 活動の内容

### (1)効率性の高い栽培方法の確立

品種に適した仕立てや整枝管理技術の確立を図るため、高収量者の栽培管理データや技術実証ほの分析を行い、栽培技術指針としてとりまとめ報告した。

### (2)環境測定を活用した生産性の向上

炭酸ガス濃度コントローラー導入者に対し、ハウス内の温湿度や炭酸ガス濃度の測定値を「見える化」して生育状況と照らし合わせ、ハウス内環境管理技術向上勉強会を行った。



高収量者のハウス内環境の見える化

## 成果

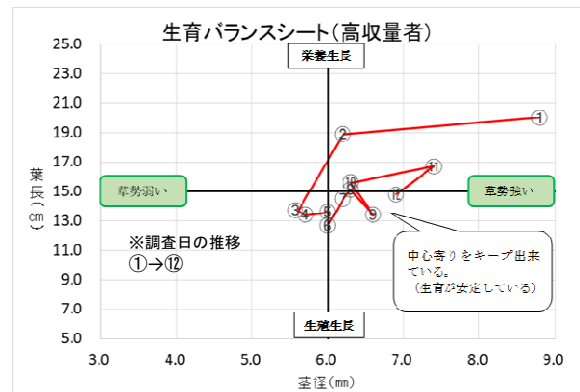
### (1)効率性の高い栽培方法の確立

- ・経営状況に応じた品種や整枝方法の導入農家数  
(目標:13戸 → 13戸)
- ・部会平均収量  
(目標:75kg/坪 → 67kg/坪)

### (2)環境測定を活用した生産性の向上

- ・研究会平均収量  
(目標:80kg/坪 → 70kg/坪)

※品種や整枝方法の変更により、収量性は維持となったが、今後は品種と整枝方法の定着により収量性向上が見込まれる。



高収量者の生育診断の見える化

## 今後の取り組み

高収量農家の栽培管理及び実証ほの分析により、導入品種に適した整枝技術や栽培管理方法の確立を支援します。

環境最適化研究会員のハウス内温湿度や炭酸ガス濃度などハウス内環境データを「見える化」し、部会内への取り組みを普及します。

# 鉢花産地のブランド強化

実施期間：平成30年度～令和2年度

朝倉地域では、鉢物リンドウが栽培され、主に敬老の日に向けた商材として全国に出荷されています。当研究会では、オリジナル品種を生産していますが、市場から需要喚起のための新商品を望む声が大きく、早急に新品種開発に取り組む体制づくりが必要でした。そこで、鉢花リンドウの新たなオリジナル品種の育成や商品開発の支援を行うことで、鉢花産地のブランド強化を図りました。

## 対象の概況

対象	戸数 (戸)
JA筑前あさくら鉢花部会	22
リンドウ研究会鉢花生産者※1	7

※1 リンドウ研究会鉢花生産者6戸は、JA筑前あさくら鉢花部会に所属している。

## 活動の内容

### (1) 育種講座の開催

育種や品種登録に関する知識を深めるために、交配および播種や品種登録の申請について育種講座を開催した。

### (2) オリジナル品種の育成

育種目標を設定し、交配、選抜および播種の作業を研究会員と取組んだ。また、有望系統の特性を把握するため、試作展示ほを設置した。



選抜している研究会員の様子

## 成果

### 新商品の開発

これまでのオリジナル品種「ここみまい心美舞」に比べて、花径が大きく株にボリュームがある出願品種が品種登録の申請に至った。

- ・新商品試作数(件)  
(目標:12件 → 16件)
- ・新品種登録申請(件)  
(目標:1件 → 1件)



品種登録申請した出願品種

## 今後の取り組み

今後も、リンドウの新商品開発に向けた支援を継続していきます。また、新品種の最適な栽培管理を検討して、鉢花品質の向上を図っていきます。

## 「秋王」のモデル農家の育成と産地への普及推進

実施期間：平成30年度～令和2年度

「秋王」は大果・良食味の福岡県育成品種で、朝倉地域におけるカキ産地振興の切り札として期待されています。

「秋王」は着果が不安定で高品質果実の生産が困難であることから、安定生産技術の確立とモデル農家育成を目指して産地支援を行いました。

### 対象の概況

JA筑前あさくら柿部会「秋王」生産者

部会員	栽培面積
43戸	4.3ha

(H29年度末時点)

### 活動の内容

#### (1)「秋王」モデル農家の育成

「秋王」栽培の優良事例となるモデル農家育成のため、重点対象農家11戸を選定し、計画的な巡回支援、技術情報提供、生産販売状況調査・報告を実施した。

#### (2)「秋王」の振興

「秋王」の導入農家、生産量拡大を図るため、春期・冬期栽培技術講習会を開催するとともに、着果・外観向上対策の試験展示ほを設置した。また、秋王研究会が実施する園地査察会等の活動に対する運営支援を行った。



秋王研究会の様子

### 成果

#### (1)「秋王」モデル農家の育成

対象農家を絞り込み重点的に巡回支援や生産販売の状況調査・報告を行ったことで、目標の単収及び正品率を達成する農家の増加につながった。

- ・単収1t以上農家  
(目標: 8戸 → 5戸)
- ・正品率75%以上農家  
(目標: 11戸 → 8戸)

#### (2)「秋王」の振興

講習会及び展示ほ設置による着果・外観向上対策の推進、秋王研究会活動に対する支援により、「秋王」導入農家が増加し、生産量が拡大した。

- ・「秋王」導入農家  
(目標: 90戸 → 93戸)
- ・「秋王」生産量(総出荷量)  
(目標: 45t → 20.8t)



「秋王」果実

### 今後の取り組み

より効果の高い着果及び正品率向上対策を確立して推進するとともに、優良農家の園地条件や栽培方法を明らかにし、産地全体に普及させる取り組みを強化していきます。

## 酪農経営における新規就農者の定着

実施期間：令和2年度～4年度

筑前町で平成30年4月に酪農経営を開始した新規就農者は、当初、飼養管理不足や猛暑により、乳量・乳質が低下し、飼養頭数も減少したため、経営状況が安定しませんでした。このため、関係機関で構成する支援会議の開催や定期的な巡回を通じて、飼養技術の指導や牛舎環境の改善指導を行い、経営の安定を図りました。

## 対象の概況

(令和2年1～12月)

経産牛 飼養頭数	生乳生産量	自給飼料 面積
37.7頭	325t	600a

## 活動の内容

## (1)経営安定化支援会議の開催

・経営分析をもとに生産面や財務面の課題等を共有し、改善指導を実施した。

## (2)定期巡回、現地指導

定期巡回等により、以下の指導を行った。

- ・飼養管理技術
- ・換気扇増設による暑熱対策
- ・自給飼料栽培
- ・堆肥化处理施設の改善
- ・経営管理



従業員（左側）と経営主夫妻（右側）

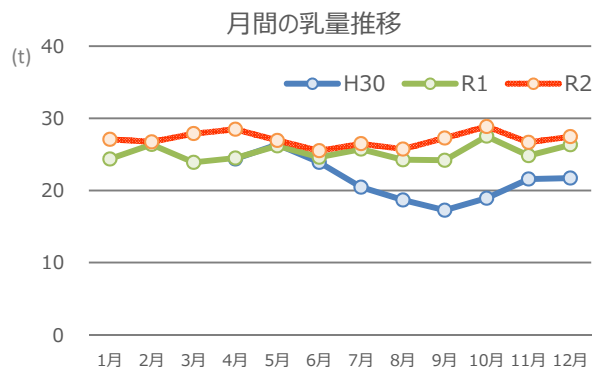
## 成果

## (1)飼養頭数が増加

・平均経産牛頭数  
(R1 : 35.1頭 → R2 : 37.7頭)

## (2)乳量・乳質の改善

・出荷乳量  
(R1 : 303t → R2 : 325t)



・平均体細胞数( /ml)  
(R1 : 15.3万 → R2 : 16.5万)

## (3)所得の確保

・青年等就農計画における就農5年後(R4)の目標生産量及び所得を早期に達成

## 今後の取り組み

引き続き、暑熱対策を中心とした飼養管理技術の指導を行うとともに、経営管理指導により、経営のさらなる安定化を図ります。

## 2 トピックス(注目の活動・技術の紹介)

### No.1

### 農福連携地域研修会を開催

地域振興課 地域係

朝倉地域では、労働力確保を目的に福祉事業所と連携して、農福連携の取組みについて検討を行っています。

その一環として10月29日、当センターにおいて農福連携地域研修会を開催し、農業者、福祉事業所、関係機関等41名が参加しました。

研修会は、静岡県浜松市で障がい者雇用による葉物類経営を行っている京丸園株式会社の代表取締役鈴木厚志氏と、社会保険労務士法人リライアンスの代表である鈴木泰子氏に講演して頂き、その後両氏との意見交換会を行いました。

意見交換会では、農福連携に取り組むきっかけや福祉側との連携について、また実習の方法など数多くの質問が出され、参加者の関心が高いことが伺われました。

今後、農業側だけでなく福祉側とも連携しながら、農福連携の実現に向けて、取組みを推進していきます。



講師の鈴木厚志氏



意見交換会の様子

### No.2

### 復旧半ばの東峰村岩屋地区で地域振興の支援

地域振興課 地域係

岩屋地区は、平成29年7月九州北部豪雨による土石流で家屋が流出し、尊い人命が奪われるなど村内でも大きな被害を受けた地区です。

現在も、河川・農地は復旧中ですが、流入した土砂の撤去工事を待つ農地や被災を免れた農地に平成の名水百選に選ばれた岩屋湧水を活用して、棚田米、水わさび、ヤマメの試験導入・販売を行いました。

地域活性化を目的に、集落の若手兼業農家が農林水産業の垣根を超え、県庁・県専門機関、村役場等と連携して、特産品開発を進めています。

今後も、村内生産・村内販売できる農産物・加工品等の特産品の試験導入・開発を支援し、地域振興を図ります。



水わさびの実証ほ



ヤマメ導入試験

## No.3

# スマート農業技術研究会を開催

地域振興課 水田農業係

近年開発が進んでいるスマート農業技術は、ロボット技術や情報通信技術を活用して省力化や高品質生産を図り、経営力の強化を実現することが期待されています。普及指導センターと関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会内の担い手部会では、水田農業の担い手農家に呼びかけ「スマート農業技術研究会」を発足し、昨年の「ドローン」に引き続き、令和2年度は施肥や作業記録などの管理を行う「営農管理システム」と水田の水位を自動調整する「水管理システム」についての勉強会を行いました。

その結果、スマート農業技術への理解が一層進み、ドローンを中心に8経営体がスマート農業技術を導入しました。

普及指導センターでは、今後も研究会の支援を通してスマート農業技術の普及に取り組みます。



営農管理システムの講義の様子



水管理システムの  
現地研修

## No.4

# 施設野菜のICT活用による収量・品質の向上に向けたグループ活動開始

園芸課 野菜係

近年、普及指導センター管内においても施設野菜で環境測定機器の導入が行われ、その活用が期待されています。

このため、関係機関で構成する朝倉地域担い手・産地育成協議会野菜部会と連携し、一層の生産性向上や高品質化を図るため、ICTを活用した環境制御技術に関心のある農業者を対象に令和2年9月29日に研修会を開催し、「環境制御技術の導入効果」や「手が届く環境制御として日射比例かん水や炭酸ガス施用が有望」であることを学びました。

また、普及指導センターからイチゴやナスなどの品目ごとに、生育診断に基づくバランスシートを活用した栽培管理の実施を呼びかけました。

今後は、環境測定機器活用実証までの現地検討会や視察を実施し、ICT機器を活用した栽培管理技術の向上を図り、収量や品質の向上を支援します。



高まるICT活用についての研修会



ハウス内の環境測定機器設置状況



## No.5

# 切花の産地振興に向けた取り組み

園芸課 花き係

朝倉地域は、キク、ダイアンサス、シンテッポウユリ等の切花産地ですが、高齢化により産地規模が縮小しています。そこで、花き栽培希望者を対象にシンテッポウユリ等の新規生産者説明会を開催し、2名の方が次年度から新たにJA筑前あさくら切花部会に加入することが決まりました。

また、切花部会では、近年ユーカリやアカシア等の花木生産が増加していますが、他の地域でも生産が増加しているため、花木の作付面積と品目を増やすことで、他産地に負けない多種多様な花木を周年出荷できる体制の構築を目指しています。本年は既存品目の拡大推進により、花木の作付面積は昨年よりも12a増加しました。また、新規に4品目を試作して、適地性や収益性を検討しています。

今後も普及指導センターは切花の産地振興に向けて、新規生産者説明会の開催や花木の周年出荷体制に向けた取り組みを支援して参ります。



新規生産者説明会



花木の新規品目(ロシアンオリーブ)

## No.6

# 生産者とともに保育所で花育活動を実施

園芸課 花き係

朝倉地域担い手・産地育成協議会花き部会では、管内保育所の園児を対象に、花育活動を行っています。生産者を講師に招き、今年には杷木保育所でアレンジメント教室を開催し、志和保育所では、花苗を使った寄せ植え教室を開催しました。

朝倉産の花の名前を覚えてもらうため、花の名前クイズも行いました。質問コーナーでは園児から多くの質問があり、生産者との交流も深まりました。この教室ではダイアンサス、パンジー、ビオラ等の朝倉産の花材を手に取りながら、花の飾り方を学びました。

普及指導センターは今後も関係機関と連携を図りながら、花の消費拡大や地域の花き振興に取り組んで参ります。



アレンジメント教室(杷木保育所)



寄せ植え教室(志和保育所)

## No.7

### 朝倉産の花で飾花活動を実施

園芸課 花き係

朝倉地域担い手・産地育成協議会花き部会では、県産花き消費促進緊急支援事業を活用し、公共施設8か所（朝倉市庁舎4か所、筑前町庁舎2か所、東峰村庁舎2か所）および管内の高校3校（朝倉高校、朝倉東高校、朝倉光陽高校の各教室）に、朝倉地域で生産された切り花や花壇苗、鉢花を飾りました。

飾花により、職場の雰囲気が明るくなり、訪れる方から花について尋ねられたりすることで、コミュニケーションが増えたとの声が聞かれました。また高校では、教室に飾られた花を見ることで気持ちが和らいだ生徒が増えたそうです。



切り花の飾花



花壇苗の飾花



高校での飾花

## No.8

### JA筑前あさくら果樹GAP研究会が県GAP団体認証取得 ～複数の果樹品目での取得は県内初！～

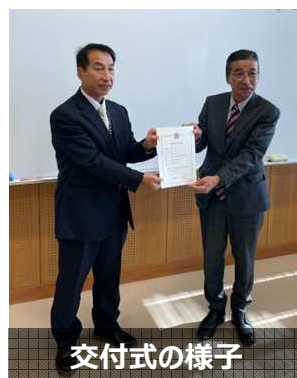
園芸課 果樹係

JA筑前あさくらでは、9月に果樹GAP研究会を設立し、カキ、ナシ、ブドウ、イチジク、モモ、スモモ、キウイフルーツの生産者15名が参加しています。品目を横断的に取り組むことで、朝倉地域として安心・安全な農産物の生産管理体制の構築を先導しています。福岡県GAPの認証取得にあたっては、研修会の開催や現地調査の事前準備などJAと普及指導センターが協力し、支援を行ってきました。その結果、11月17日には県GAPの団体認証を取得し、12月17日には朝倉普及指導センターで、県GAP認定証の交付式が開催されました。複数の果樹品目で横断的に認証取得するのは県内で初めてとなります。

今後も普及指導センターは、関係機関と連携して、研究会への支援を通して、GAPの取り組みの推進を図って参ります。



現地調査の様子



交付式の様子

## No.9

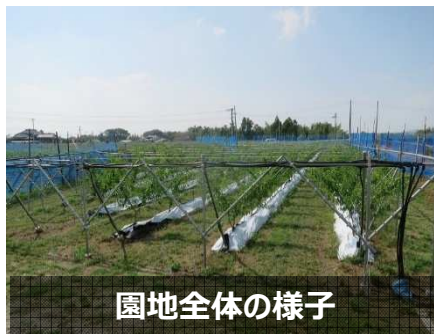
### モモ根圏制御栽培の現地試験を実施

園芸課 果樹係

朝倉地域では、平成29年の九州北部豪雨によって様々な果樹園地で甚大な被害を受けました。そこで被災した果樹農家の営農再開に向けて、モモでは新技術である根圏制御栽培の導入を開始しました。根圏制御栽培は、①細かな水分コントロールによる高品質果実生産、②樹形と作業動線がシンプルになることによる作業性向上、③密植によって早期から収量を確保する早期成園化が可能となり、農家の所得向上に大きな期待が持たれます。本年度は技術の導入と同時に苗木を植栽したため、果実は着果していないものの、適切な仕立て方や、かん水量と土壌水分との関係の検討などを実施しました。普及指導センターでは今後も関係機関と連携して、様々な観点から被災農家・被災園地の復旧・復興に向けた支援を行って参ります。



モモ根圏制御栽培



園地全体の様子

## No.10

### 第1回繁殖雌牛集合審査会を開催 (久留米地域和牛改良組合)

果樹畜産課 畜産係

本年度は秋に予定されていた県の繁殖雌牛の共進会が中止となりましたが、「久留米地域和牛改良組合」では衛生対策を講じた上で、組合員の牧場敷地内において「第1回繁殖雌牛集合審査会」を開催しました。

(公社)全国和牛登録協会他から講師を招き、組合員の育てた若雌牛10頭をそれぞれの月齢に応じて審査いただきました。講師から1頭1頭「優れた点」「足りない点」について、対象の牛を見ながら解説・改善アドバイスを受け、直にプロから牛について学ぶ充実した良い機会にもなりました。



審査状況  
(若雌1区1席牛)



良い「触感」の確認

### 3 参考資料

#### (1) 管内の各種表彰農家の紹介

**表彰名：令和2年度福岡県花き品評会  
産物の部 農林水産大臣賞**  
**受賞者：井本正利氏（朝倉市）**

令和2年11月20日、福岡市の福岡県花卉農業協同組合において、令和2年度福岡県花き品評会（産物の部）が行われ、朝倉市の井本正利さんがトルコギキョウ「セブリティホワイト」で、農林水産大臣賞を受賞されました。夏季の高温など気象条件の厳しい中、切花品質が確保され、出荷期に開花したことが評価されたものです。

井本さんはトルコギキョウと草花を組合せた花き専作経営を行っています。毎年、試作や市場等との情報交換を重ね、消費者に好まれる品種選定を行う一方、肥培管理の改善を図り、切花品質の向上に取り組んでおられます。



受賞された井本正利さん

**表彰名：令和2年度福岡県麦作共励会 福岡県知事賞**  
**受賞者：野安男氏（筑前町）**

令和2年度福岡県麦作共励会において、筑前町の野安男氏が農家の部で「福岡県知事賞」を受賞しました。

野氏は、高品質・高収量を実現させるため、排水対策を徹底するとともに、追肥重点型多肥栽培を導入するなど熱心に麦作に取り組んでいます。

また、麦踏みをも4回以上実施し、倒伏による品質低下の防止に努めています。

それらの努力により、令和2年産は、県平均収量と比較して大麦では181%、小麦では137%の高収量を実現しました。



野安男氏

## (2)新型コロナウイルスの影響下における普及活動

### 1 日常的な活動

例年がない状況の中で、生産者や部会等への支援方法も、その時々状況に応じて変更を余儀なくされた。この項では、それらの対策(活動実績)について取りまとめた。

#### (1)講習会

##### ・水田農業係

水稻育苗講習会や大豆講習会の開催を中止し、JAだより配布に合わせ普及センターが作成した資料を全戸配布した。JA大豆採種研究会は開催を中止した。

##### ・野菜係

万能ねぎ部会、契約コショウ、アスパラガス部会講習会の開催を中止し、普及センターが作成した資料を配布した。また、冬春なす部会や冬春きゅうり部会の現地巡回は開催方法を変更し、全員での巡回ではなく、JAと普及センターの指導員のみでの巡回とした。

##### ・花き係

リンドウ研究会や花壇苗研究会の講習会の開催を中止し、栽培管理方法や病害虫への対応については、個別巡回で対応した。

##### ・果樹係

ナシ部会およびカキ部会では、三密を避けるために会場数を増やして開催した。その他必要な情報は、FAXにより提供した。モモ部会、とよみつひめ部会、ブドウ部会では講習会を中止し、FAXによる情報提供と、個別巡回による栽培指導を行った。

#### (2)総会

##### ・地域係

朝倉地区農村女性グループの総会を見送り書面議決を行った。

##### ・水田農業係

JA普通作部会、JA採種部会、JA大豆採種研究会の総会開催を中止し、書面議決を行った。

##### ・野菜係

万能ねぎ部会では、全員ではなく、代表者のみで開催した。青梗菜部会は、総会の開催を延期した。いちご部会(三輪)は総会開催を見送り、書面議決を行った。

##### ・花き係

鉢花部会と切花部会では、総会開催を見送り、書面議決を行った。

##### ・果樹係

親部会、各支部、青年部の総会開催を見送り、書面議決を行った。

### (3)視察・研修会等

#### ・地域係

朝倉地区農村女性グループ連絡研究会では、2回視察時期を変更し視察を試みたが、いずれも中止になった。

#### ・水田農業係

集落営農法人向けの研修会を企画し、オンラインで研修内容の打ち合わせ等を行ったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、研修会の開催には至らなかった。

#### ・野菜係

育成協野菜部会では、ハウス内の環境制御技術についての研修会をオンラインで実施した。



オンライン研修会の様子

### (4)会議等

#### ・地域係

朝倉地区障害者等自立支援協議会では、会議の開催を中止した。

### (5)育成協の活動

#### ・地域係

育成協では総会開催を見送り、書面議決を行った。

#### ・水田農業係

普通作部会米麦大豆振興大会では、開催を中止した。

## 2 補助金等への対応

### (1)福岡県持続化緊急支援金

- ・目的:新型コロナウイルスの感染拡大により、大きな影響を受けた事業者に対し、事業の継続を下支えし、再起の糧としてもらうため、事業全般に広く使える支援金を給付するもの
- ・対象者:中堅・中小法人、個人事業者。医療、農業およびNPO法人等。
- ・給付額:法人50万円、個人事業者25万円
- ・申請支援:7月3日(花壇苗生産者の申請に際し、売り上げ減少割合の算出、申請に必要な書類の確認やネット申請の補助等について支援を行った)

### (2)経営継続補助金

- ・目的:新型コロナウイルス感染症の影響を克服するため、感染拡大防止対策を行いつつ、販路の回復・開拓、生産・販売方法の確立・転換などの経営継続に向けた農林漁業者の取組を支援するもの
- ・対象者:農林業者(個人、法人)
- ・補助上限額:単独申請150万円、共同申請1,500万円
- ・申請支援:1次=7月15日~7月16日、2次=11月4日
- ・当管内はJAが組合員外も含めて申請受付を実施  
このため、普及指導センターも説明会や申請受付に参加し、関係機関一体となって支援



経営継続補助金申請時の様子

### (3)高収益作物次期作支援交付金

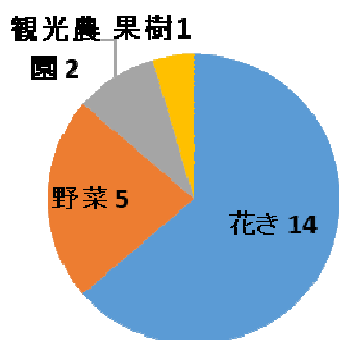
- ・目的:新型コロナウイルス感染症の発生により売上げが減少する等の影響を受けた高収益作物(野菜、花き、果樹、茶)について、次期作に前向きに取り組む生産者を支援するもの
- ・対象者:令和2年2月から4月の間に野菜、花き、果樹、茶について、出荷実績がある又は廃棄等により出荷できなかった生産者
- ・支援内容:基本単価5万円/10aなど
- ・生産者説明会:8月24日
- ・運用見直し説明会:10月29日(九州農政局からの説明)
- ・申請支援:11月16日(JA筑前あさくら鉢花関係など)
- ・当管内は朝倉市が代表となり、申請受付を実施。取り組みの途中で事業要件が大きく変わるなど、申請支援に混乱が生じた。

### 3 農業者からの相談件数

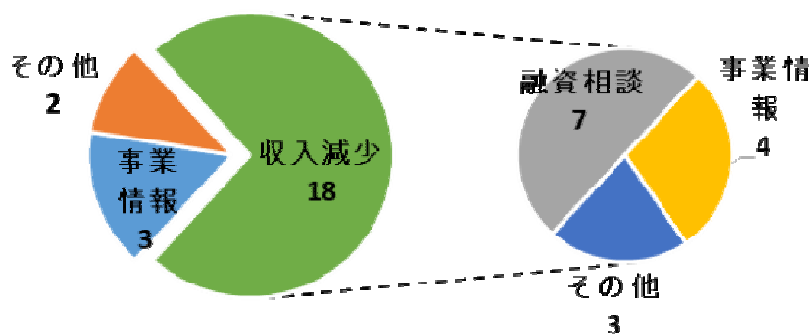
普及指導センターに寄せられた相談は、品目別では花きが最多で、次いで野菜、観光農園の順であった。

主な影響としては、花きでは卒業式等のイベントの中止による注文数の減少や市況の悪化、野菜では外食産業の需要減による市況の悪化、観光農園では観光客のキャンセルといったものであった。

内容別では、「収入減少」が大部分を占め、特にセーフティネット資金など融資に関する相談が多かった。



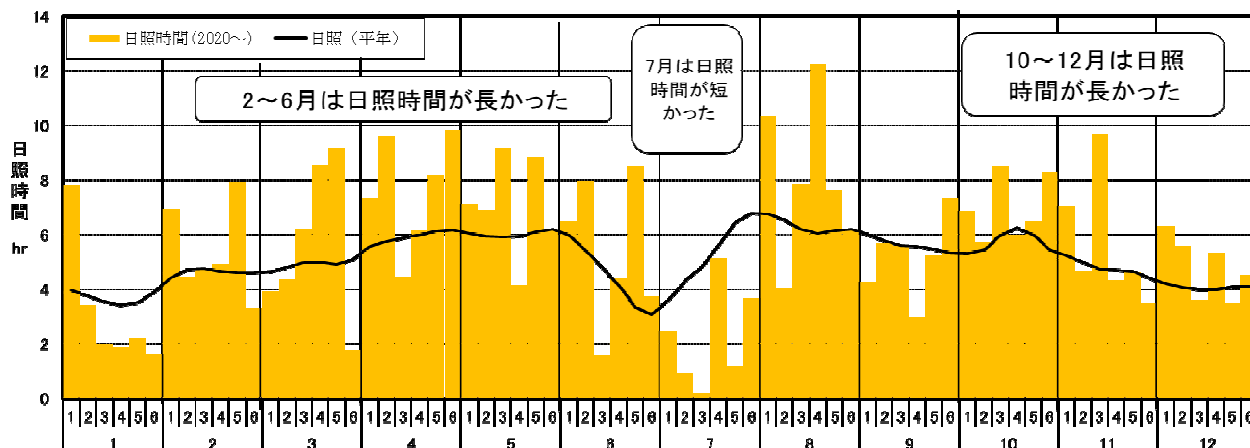
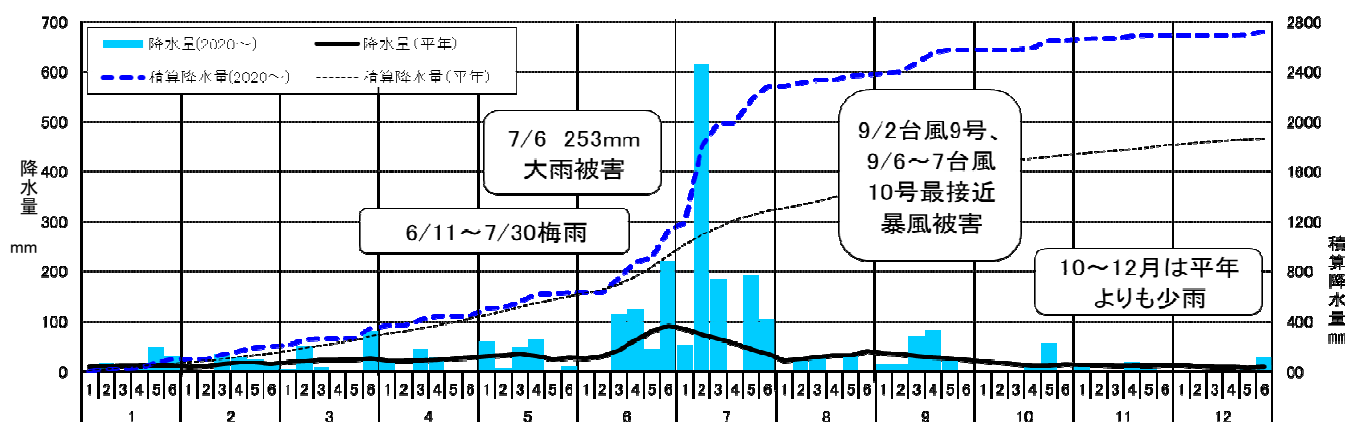
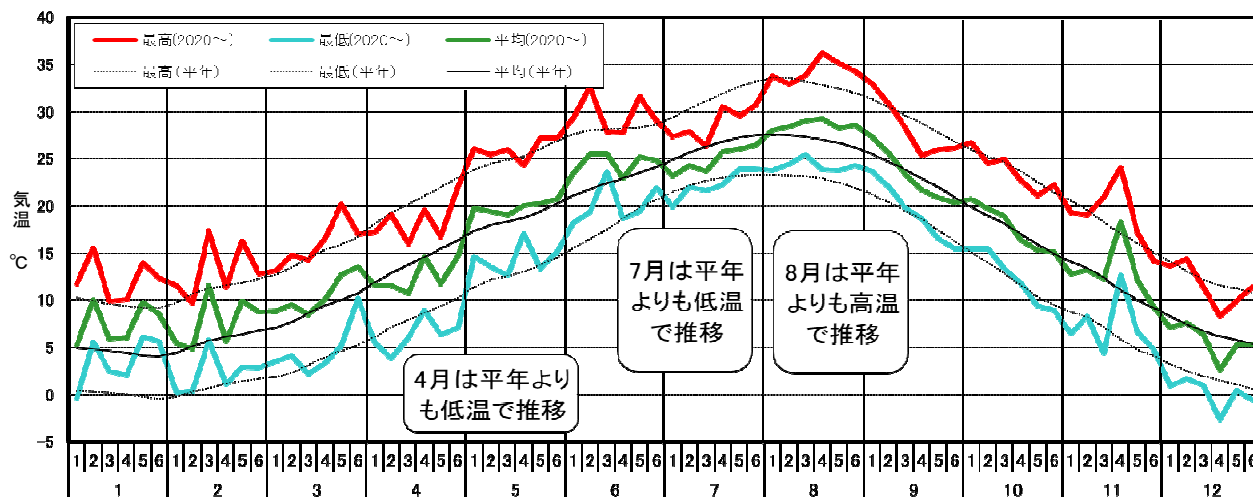
品目別相談件数(のべ)



内容別相談件数(のべ)

※令和2年3月～7月に普及指導センターへ相談があった件数を集計したもの

### (3)令和2年の気象概況および生産概況



年間平均気温は平年の15.6℃に対し、令和2年は16.3℃と、0.7℃高かった。年間降水量は平年の1860.4mmに対し、令和2年は2746.0mmと平年の148%であった。年間日照時間は平年の1878.1時間に対し、令和2年は2041.2時間と、平年の109%であった。

1～3月の気温は平年よりも高温で推移した。その後4月と7月は平年よりも低温で、また8月は平年よりも高温で推移した。9月以降は、11月を除いて平年並みか、やや低温で推移した。

1～5月の降水量は4月を除いて平年を上回った。6～7月も平年を上回ったが、特に7月は平年の323%と、平年を大きく上回る降水となり、大雨災害が発生した。8月以降は9月を除き、降水量は平年を下回った。台風は9月2日に9号、9月6～7日に10号が接近し、両台風により、ビニルハウスの被覆資材の破損、ハウスの倒伏、果実の落下等の被害をもたらした。

梅雨（6月11日～7月30日、50日間）の総雨量は平年同時期の264%（1651mm）で、平年の梅雨（6/5～7/19、45日間）の総雨量の285%に相当した。また、この年の梅雨期間の総日照時間は、平年同時期の67%（156.8hr）であった。



## (水稻・麦・大豆)

令和2年産の麦は、生育期間の平均気温が高かったため、生育が早かった。1月中旬以降、降雨が続いたため、管理作業ができず、追肥の時期が遅れた。2月以降も気温が高く推移したため、出穂期は平年より14日以上早くなり、赤かび病の防除適期について情報提供を行った。4月の気温が下がったことから、成熟期は、平年よりやや早い～平年並みとなった。出穂後、降水量は少なく推移したため、病害虫の発生は少なく、多収となった。

水稻は、田植え後に降水量が多く、日照時間が少なかったため、軟弱徒長となり、生育が遅れた。

7月6～7日の豪雨で、管内の河川が氾濫し、河川沿いの水田が浸冠水したため、事後対策として水管理や白葉枯病対策等に関する情報提供を行った。

トビイロウンカの飛来量が多かったことから、7月中旬から8月下旬にかけ注意喚起、防除適期について情報提供を行った。

7月の低温・日照不足、トビイロウンカの被害、9月の台風9号、10号の接近に伴う強風などにより、生育量不足と登熟不良が重なり低収となった。

大豆は梅雨明け(7月30日頃)が遅れたことから、播種の中心が8月上旬となった。播種の遅れや8月の少雨により生育期間を通じ生育量は小さかった。

9月の台風9号、10号の強風により、特に適期に播種したほ場で倒伏や葉の裂傷が発生した。

播種の遅れや台風の接近に伴う強風、9月下旬以降の少雨などにより、生育量不足、整粒数の減少や粒肥大の抑制が重なり低収となった。

## (野菜)

青ネギでは、令和2年の4月から7月上旬までは順調な生育であった。しかし、7月6～7日の大雨により38haのほ場が冠水被害を受け、倒伏や枯死により収穫ができないほ場が見られた。その後土壌消毒と播き直しが行われたが、7月下旬から9月中旬まで数量が減少した。9月下旬以降は播き直し分の収穫が始まり年内は数量が多く、安定した出荷となった。

イチゴでは、ランナー発生の遅れや、それに伴う採苗遅れにより、一部で苗の充実不足と生育のばらつきが見られた。令和元年10月以降、高温で日照時間も多かったことから、1～2番果房の生育は前進化し、早期着色により小玉傾向となった。4月の低温により生育は平年並みとなったが、5月の気温上昇により成熟が一気に進んだ。全体の収量は前年よりも多くなった。

ナスでは、「省太」から「PC筑陽」に品種を全面更新した。令和元年9月定植以降、生育は順調で、高温で推移したため年内の出荷量は前倒しで多くなった。その後成り疲れにより樹勢の低下が見られ、令和2年の1月中旬以降、樹勢は回復に向かったものの日射量が少なかったため着果数が増えず、首細果の発生が多くなった。2月には樹勢が回復し、3月中旬以降好天が続いたため出荷量が増加し、坪当りの出荷量も前年よりも多くなった。

キュウリでは、令和元年の9月下旬の雨により定植がやや遅れたが、活着は順調であった。年内は暖冬により草勢は強く、生育は前進化し、収穫量が多い傾向となった。令和2年の年明け後も気温が高く、安定した収穫が続いたが、春以降は生育の前進化による株疲れが一時的に生じた。5月以降は草勢が回復し、安定した出荷量となった。病害虫は、暖冬により、コナジラミ類やアザミウマ類の発生が多く、一部で退緑黄化病や黄化えそ病の発生が見られた。

## (花き)

鉢物リンドウは、3月から6月下旬まで、気温は平年に比べてやや高く、日照時間も長かったため、挿し木直後から初期生育まで生育は進んだ。また、7月は、気温が平年に比べて低く、日照時間も平年を下回る日が多かったため、花芽発達は進んだが、やや軟弱な生育であった。梅雨明け後、8月中旬から9月上旬まで、気温は、平年に比べて高く推移したため、花芽発達が一時停滞した。9月上旬から出荷期までは、気温は平年に比べて低かったため、花芽発達が進み、おおむね敬老の日前に出荷できた。また、台風の接近により、鉢の倒伏などの被害が一部発生した。

シンテッポウユリは、4月の定植以降、平年よりも低温で推移したため、活着までに時間を要した。5月以降は平年並みの降雨があったため、抽だいまで順調に生育した。6月下旬、7月上旬の豪雨により畝上冠水したほ場で、立ち枯れ症状が発生した。また梅雨期の長雨により葉枯病が下位節から中位節まで広がり、出荷直前まで生産者は防除作業に追われた。出荷率が大幅に減少することはなかったが、秀品率が低下した。

花壇苗は、5月から6月は平年より気温が高く推移し、降水量も多い傾向にあったことから、細菌病等の病害の発生がやや多かった。7月上旬の大雨では、朝倉市で冠水被害が発生したため、植物の泥落としや薬剤防除等を指導した。9月以降、ヤガ類による被害が目立つようになり、10月上旬まで一部ほ場で被害が散見された。年末にかけては、気温の低下に伴い、うどんこ病の発生が増加した。

## (果樹)

ナシ・モモ・スモモの開花期(3月下旬～4月上旬)は、気温が低く推移したことから、開花期間が長く、結実是不安定であった。カキ・ブドウの開花期(5月中旬)も、天候不順や低温の影響で開花が不揃いとなり、一部の園地で結実不良を招いた。

暖冬による自発休眠覚醒の遅れは、その後の生育にも大きく影響を及ぼし、全品目で結実不足や果実肥大抑制等、生育が不安定となった。このため、安定生産に向けて、早期摘果、かん水の徹底、早めの防除等、気象変動に応じたこまめな栽培管理の徹底を支援した。

梅雨期以降(6月下旬～7月)は、長雨で日照時間が極端に不足した影響で、モモやナシ、ブドウ、スモモ等の夏果実を中心に果実肥大の抑制や糖度低下、着色不良等、果実品質の低下を招き、出荷量は前年を下回った。

カキは、長雨による日照不足や梅雨明け直後からの高温乾燥により、生理落果の増加や小玉化が助長され、出荷量は前年を下回った。

イチジクは、長雨・日照不足の影響が大きく、着色不良や腐敗果・疫病の発生が散見され、出荷量は前年を下回った。

## (4)令和2年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	展示ほの目的・概要
水稲	「実りつくし」の安定生産技術の確立	朝倉市	「実りつくし」の安定生産技術の確立を図るため、カリ肥料を増量した緩効性肥料の展示ほを設置した。試験区は、対照区と比べ穂数が多く、登熟歩合が低かったものの、収量は113%と多収となった。
大豆	大豆新品種「ちくしB5号」の現地における栽培適性について	筑前町	「ちくしB5号」の地域適応性及び高品質・安定栽培技術を確立するために設置した。収量は、270kg/10a程度と既存のフクユタカと同等の収量であった。また、基肥に緩効性肥料を用いた試験では、収量が103%と慣行施肥と同等の結果になった。
麦類	麦類の施肥方法について	朝倉市 筑前町	安定した収量を確保するために、基肥を減らし、追肥を増やす、追肥重点型の展示ほを設置した。小麦5か所の収量は、平均115%(105%~126%)と多収となった。経年での結果を見る必要があることから継続して試験を実施する。
ナス	全量基肥施肥技術の検討	筑前町	「PC筑陽」は、着果負担による樹勢低下や着果の山谷が発生しやすいため、基肥一発施肥を行い肥効の安定による品質向上と安定出荷の試験を実施中である。試験結果については生産者に紹介し、追肥作業の省力化及び品質向上に活用する。
ユーカリ アカシア	切り枝の高温期の乾式輸送に対応した鮮度保持剤処理方法の確立	朝倉市	高温期の乾式輸送は新梢にしおれが発生し、クレームの要因となっているため、鮮度保持剤処理による乾式輸送での効果を検討した。鮮度保持剤処理により、どの品種も日持ち期間は向上したが、最大でも5.3日と短かったため、さらに検証が必要である。
ホオズキ	定植苗の種類(挿し芽苗と地下茎)がホオズキの生育と切り花形質及び収益性に及ぼす影響	朝倉市	挿し芽苗を利用した新たな生産技術を検討した。草丈は地下茎苗が挿し芽苗よりも長かったが、挿し芽苗でも定植時期を早めれば、慣行と同等の切花長を確保できると思われた。着果率や収益性は、地下茎苗でスリップスの被害が発生したため、正確な比較ができなかった。
花壇苗	緑色LED防蛾灯を用いた花壇苗のヤガ類被害軽減と防除コスト低減の実証	朝倉市	緑色LED防蛾灯によるヤガ類被害軽減効果を検討した。防蛾灯の利用により被害は軽減できたが、導入費用が増加したため、防除コストは低減できなかった。しかし、ヤガ類による想定被害金額は、40~80千円と試算されるため、多発した年には導入効果が期待できる。
ブドウ	「シャインマスカット」生産技術実証ほ	朝倉市	近年、「シャインマスカット」について、産地間で品質格差が生じていることから、県下の主要産地で現地調査を行い、品質格差を是正する対策(適正LAI、目標収量等)を栽培マニュアルに反映した。
カキ	「秋王」県育成果樹生産拡大に係る実証ほ	朝倉市	「秋王」は、着果安定及び外観品質向上が課題である。そこでノコ目時期別処理、着果・枝梢管理及びサビダニ防除試験を実施した。ノコ目処理は慣行期処理で着果率が向上し、着果・枝梢管理徹底及びサビダニ防除の実施により健全果の発生割合が増加した。
ナシ	「玉水」県育成果樹生産拡大に係る実証ほ	朝倉市	「玉水」は現在、果実肥大と短果枝の着生が重要な課題となっている。そこで、摘果および摘心処理の時期を検討した。摘果時期は結果が安定せず、さらなる検証が必要。摘心処理は、6月上旬処理が花芽が着生しやすいが、より安定した時期の検証が必要である。

## (5)令和2年度普及指導センター活動情報一覧

令和2年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

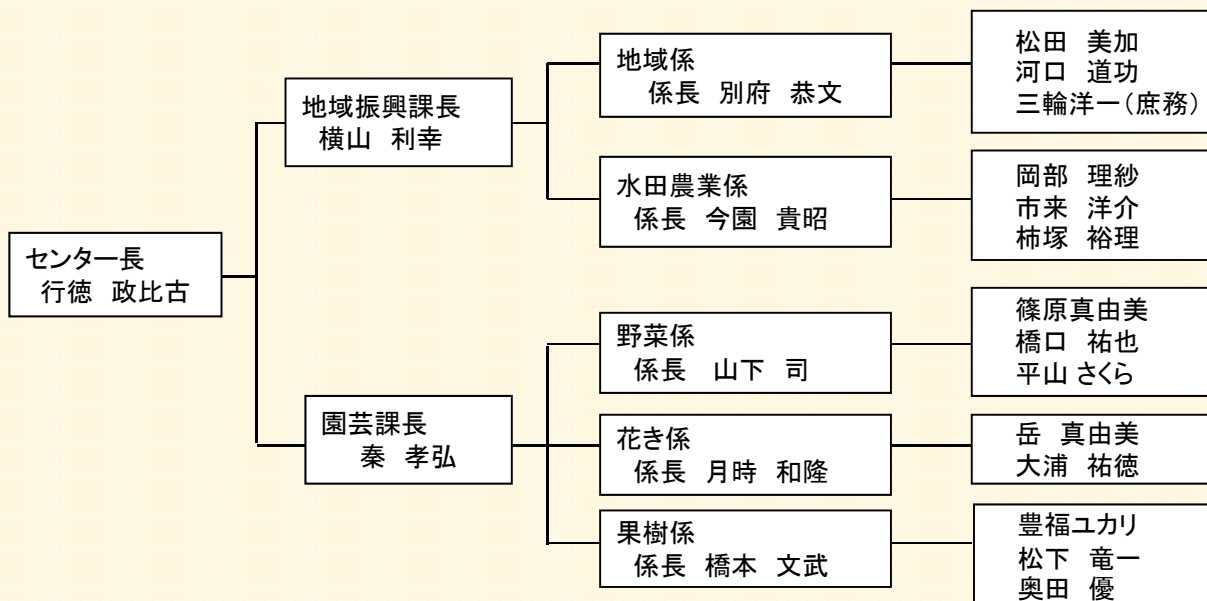
No.	タイトル	担当係	発行月
1	ハウスモモで季節を先取り！	果樹係	6月
2	イチゴでの就農に向けた研修を開始	地域係	6月
3	東峰村の農業集落を守る計画づくりが本格化	水田農業係	7月
4	コロナに負けない！新盆向けホオズキが出荷	花き係	7月
5	コロナにも豪雨にも負けない！あさくら産の花	花き係	8月
6	水田農業の担い手が水管理システムに触れる	水田農業係	8月
7	栽培情報のデータ化、見える化で経営改善	地域係	8月
8	朝倉の鉢物リンドウの出荷が最盛期を迎えました	花き係	9月
9	営農管理システムを知ろう	水田農業係	9月
10	ICT(情報通信技術)活用による収量・品質の向上をめざして	野菜係	10月
11	カキ産地振興の起爆剤「秋王」の季節到来！	果樹係	10月
12	農福連携の実現に向けて第一歩	地域係	11月
13	見えないけれど、育ってます！！	野菜係	11月
14	フルーツの里、朝倉地域に新たな品目が誕生	果樹係	11月
15	地元の花を身近に感じ、触れることで感動の体験を	花き係	11月
16	復興に向けて、地域農業の未来を考える	水田農業係	12月
17	若手農業者が労務管理について学ぶ！	果樹係	12月
18	果樹生産に安心安全を！	果樹係	1月
19	モモの新技术で産地を活性化！	果樹係	1月
20	朝倉地域のカキを守るために	果樹係	2月
21	令和3年度の農業研修生採用面談を開催	地域係	2月
22	情報発信で産地振興を！	花き係	3月
23	ICT(情報通信技術)活用による収量・品質の向上をめざして	野菜係	3月
24	冬春なす部会がリモート視察を受ける	野菜係	3月

# (6)普及指導センターの活動課題と活動体制

## 1. 活動課題

区分	No.	普及計画課題名	期間(年)	掲載ページ
課題 プロジェクト	1	被災地の農業再生による朝倉地域農業の活性化	H30～R2	1
	2	将来のあさくらの農業を担う新規就農者の育成	H30～R2	3
係 課題	3	朝倉地域を担う経営体の育成	R2～R4	5
	4	力強い水田農業担い手の育成	R2～R4	6
	5	水稻・大豆の安定生産	R1～R3	-
	6	朝倉地域イチゴ生産技術向上	H30～R2	7
	7	冬春キュウリにおける省力化技術及び環境測定を活用した生産性の向上	H30～R2	8
	8	冬春なすの生産性向上及び省力技術の導入	R2～R4	-
	9	博多万能ねぎの産地振興	R2～R4	-
	10	切花の経営安定と産地振興	R2～R4	-
	11	鉢花産地のブランド強化	H30～R2	9
	12	「秋王」のモデル農家の育成と産地への普及推進	H30～R2	10
	13	朝倉地域ナシ産地の活性化	R1～R3	-
	14	「とよみつひめ」の産地力強化	R1～R3	-
	15	持続する酪農経営の基盤強化	R2～R4	11
	16	黒毛和種繁殖経営の強化と博多和牛の知名度向上	H30～R3	-

## 2. 活動体制



発行：福岡県朝倉農林事務所朝倉普及指導センター

〒838-0026  
福岡県朝倉市柿原1110-2  
TEL 0946-22-2551  
FAX 0946-23-1452

福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703216
登録年度 02	登録番号 0001